

## プレート境界型巨大地震に誘発される内陸活断層地震 Active fault earthquakes triggered by mega thrust earthquakes on plate boundaries

吾妻 崇<sup>1\*</sup>, 松多 信尚<sup>2</sup>

AZUMA, Takashi<sup>1\*</sup>, MATSUTA, Nobuhisa<sup>2</sup>

<sup>1</sup>産総研 活断層・地震研究センター, <sup>2</sup>名古屋大学 地震火山研究センター

<sup>1</sup>Active Fault and Earthquake Research Center, AIST, <sup>2</sup>Earthquake and Volcano Research Center, Nagoya University

2011年東北地方太平洋沖地震がもたらした地殻変動および地震動は、内陸活断層の地震発生に対しても影響を与えている。長野県・新潟県境付近の地震(M6.7)、静岡県東部の地震(M6.4)、福島県浜通りの地震(M7.0)などは、3月11日の本震に誘発された地震と考えられている。とくに、福島県浜通りの地震は、既知の活断層が活動して最大変位量が2mに及ぶ正断層の地表地震断層が出現しただけでなく、通常の応力場では動きにくいと考えられる活断層が周辺で大地震が発生した際の一時的・地域的な応力状態の変化によって活動する可能性があることを知らしめた点で注目される。国の地震活動評価においては、牛伏寺断層、立川断層、三浦半島活断層群などの活断層における地震発生確率が、東北地方太平洋沖地震によって高まったことが指摘された。巨大海溝型地震の前後に内陸活断層の活動性が高かったことは過去にも経験的には知られていたが、両者の関係について地球科学的な観点から明らかにしていくことが今後の課題として重要である。今回の一連の地震活動に関する調査研究成果のほか、過去の地震記録に基づく事例や海外における同様な事例についても検討する。

キーワード: 活断層, 誘発地震, プレート境界地震

Keywords: active fault, triggered earthquake, plate boundary earthquake